

【声明】

辺野古新基地建設に強く反対する

鹿児島県保険医協会
会長 高岡 茂

昨年9月30日米軍の辺野古新基地建設反対をかかげた玉城デニー氏が沖縄県知事選挙史上過去最多の39万票を獲得し、相手候補に大差をつけ知事に当選した。

この選挙結果は、「もうこれ以上、沖縄に基地をつくらせない」という沖縄県民の強い意志を示したものである。

ところが、安倍政権は、選挙で示された沖縄県民の意志を踏みにじり、わずか1ヵ月後の11月には基地建設の再開を強行し、12月14日には、辺野古の埋め立て区域へ土砂を投入するという暴挙に出た。

沖縄県民が日本政府に対して訴え続けてきた、「基地負担の軽減」は実行されることなく、日本の国土の僅か0.6%である沖縄県に在日米軍基地の70%以上を押し付けたままである。

沖縄県民の願いを無視した安倍政権による辺野古新基地建設強行は、「基本的人権の尊重」「地方自治の尊重」「平和主義」「国民主権」という日本国憲法の原則を侵害する憲法無視の暴挙である。

平和と環境保全は医療の前提である。

鹿児島県保険医協会は、国民の命と健康を守り、平和と民主主義を守る立場から、そして、平和で安心して暮らせる沖縄と日本を実現するために辺野古新基地建設に強く反対する。

2019年2月14日

◆鹿児島県保険医協会が
辺野古新基地建設に反
対声明 鹿児島県保険
医協会（高岡茂会長、
1282人）は15日、
沖縄県辺野古に米軍新
基地を作る政府などの
動きに対し、反対声明
を出し、首相官邸、沖
縄県、鹿児島県選出の
国会議員宛に送付し
た。声明では、新基地
建設反対を掲げた玉城
デニー氏が当選したの
は、「これ以上沖縄に
基地を作らせないと
いう県民の強い意思だ
と指摘。それを無視し
た安倍政権による強行
は、基本的人権の尊重
や平和主義など、日本
国憲法の原則を侵害す
る暴挙だとしている。

2019年2月16日付 南日本新聞